

# 仮想空間で交通リアルに

## トヨタ子会社・名大 システム開発



車や歩行者などが同時に画面上を動けるシステムを紹介する伴和徳さん(手前)＝名古屋市で

トヨタ自動車子会社のトヨタテックニカルデバイスソリューションズ(TTDC)と名古屋大は、車や歩行者などの動きを仮想空間でリアルに再現するシステムを開発した。同一の画面で多様な交通参加者が同時に動く実験が可能になるため、参加者が相互に影響しあう様子が分析できる。事故のリスク評価や人間目線での車両開発、交通安全の啓発などに役立つと期待する。(杉藤貴浩)

## 車や歩行者 安全対策に一役

仮想空間は、愛知県豊田一市や名古屋市の街並みの一部を再現。歩行者として実験に参加する場合は、専用のゴーグルなどを身に付け、腕を振ることで進むことができる。車のドライバーは模擬の運転席でアクセルやブレーキ、ハンドルの操作し、画面上を

左折先の歩行者が見えづらいといった体感を実際の運転に生かすことができる。運転席などハード面の製作には、自動車部品メーカー杉浦(愛知県岡崎市)が協力し、リアルさを追求した。開発は、TTDCと名古屋大が2021年4月に開始。主導したTTDC出身で名古屋大特任教授の伴和徳さんは「自分の運転によって歩行者がどう動いたかといった経験から、客観的な視点を持てるようになる」と話す。交通安全イベントなどでの紹介のほか、自動運転など次世代車の開発に向けた活用を目指す。

走る。自転車用の模擬車で走ると、歩行者が同一の画面に現れるのが特徴。たとえば車が左折して横断歩道を横切ろうとした場面では、横断中の歩行者は迫ってくる車体をゴーグルを通して実感することができ